

## 「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2026」を実施 ～必ず来る、その日のために 家族の防災力を高めて、将来に備えよう～

日本損害保険協会中部・北陸支部（委員長：渡辺 一奈・三井住友海上火災保険株式会社執行役員）は、5月30日（土）に名古屋大学の 福和 伸夫 名誉教授をナビゲーターに迎え、同大学内で「親子で学ぶ 防災・減災ピクニック」を実施しました。このイベントは親子で防災・減災を学ぶもので、新型コロナウイルス感染症の影響で中止の年を除き、今回で9回目の開催となりました。

本イベントは20組の親子40名の定員のところ、今年は過去最高の100組262名（倍率約6.6倍）の応募があり、人気企画となっております。

当日は、名古屋大学博物館で①地域の成り立ちを学ぶ「名古屋大学博物館ツアー」、②同大学内にある地層や遺跡などを巡る「名古屋大学東山キャンパスツアー」、③減災館で地震や洪水の模擬装置を用いて災害の危険性を学ぶ「減災館見学ミニツアー」、④減災館で「福和教授による揺れ方の実験」の4つのプログラムを実施しました。

「名古屋大学博物館ツアー」では、大学生や学芸員が博物館の展示物について解説し、参加者は地震計や岩石、土器などの展示物を見たり触れたり質問をしたりしていました。

「名古屋大学東山キャンパスツアー」では、高低差約40mの東山キャンパスの地形を感じてもらうため徒歩で散策しました。参加者は、地層がむき出しになっている八事層を触わり、“チャート”という岩石を発見していました。また、猿投窯という陶磁器を焼くために用いられた窯跡について大学生が解説するなど、防災の基礎である地学について学びました。

「減災館見学ミニツアー」では、減災館の地震再現装置を見学したり、プロジェクションマッピングで地域の浸水の状況を地図に投影したものを見たりするなど、普段は接することのできない設備や装置を見学・体験しました。

「福和教授による揺れ方の実験」では、プリンを使って地盤や地形による揺れの違いを体感したり、ココアと小麦粉を使って断層のでき方を学んだり、実験キットを使って建物の構造による揺れの違いを学びました。

参加者からは、「防災への危機感を家族で再確認する上でも良い機会になった」、「友達にも家具固定や災害への備えを呼びかけたい」といった感想が寄せられました。

当支部では、南海トラフ巨大地震に備えて、今後も家庭や地域の防災力を高める取組みを進めます。



博物館ツアーの様子①



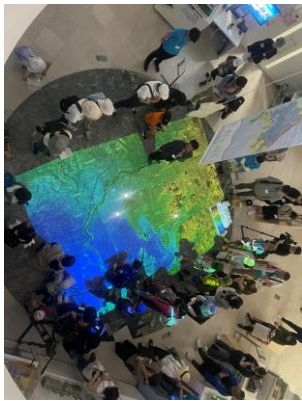
博物館ツアーの様子②



キャンパスツアーの様子①



キャンパスツアーの様子②



減災館ツアーの様子①



減災館ツアーの様子②



福和先生による実験の様子①



福和先生による実験の様子②